

### 多自然川づくり取組事例

タイトル：江戸川 玉葉橋付近の稼働掘削について ～江戸川内の自然遷移と人為的改変～		
水系/河川名：利根川水系江戸川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：200	整備計画流量：5300m <sup>3</sup> /s	セグメント：2-2
事業：その他	事業開始年度：平成17年度	
目標設定：なし	段階：A(フィードバック時)	
課題・目的(主な)：貴重種、特定動植物の保全、縦断的連続性の保全・再生・創出		
工法(主な)：掘削(高水敷)、掘削(低水路)		
配慮事項(主な)：その他		

#### 背景・課題、目標設定

##### <背景>

江戸川では平成17年ころより多自然川づくりに取り組んできている。  
 取組の成果について好事例を踏まえ平成24年に全国会議にて紹介させていただいた。  
 その後、ワンドや緩傾斜河岸、自然に配慮した河岸のその後について経過観察を実施してきたところである。

今までの取組の方針は「生物多様性の拡大を目指して、河道掘削などの取組で人為的な改変を行っていく」としてきていたが、その後の継続して実施してきた調査結果やその後にあった洪水の影響、整備箇所その後の状況などから、平成24年に想定していた自然遷移の状況と実態に差があることがわかってきた。

最新の江戸川の自然遷移についての知見の説明と、知見を受けての今後の対応「生物多様性の拡大にむけて、河道掘削等による人工的攪乱が必要として取組む」と方針を定め対応していくものである。

##### <課題>

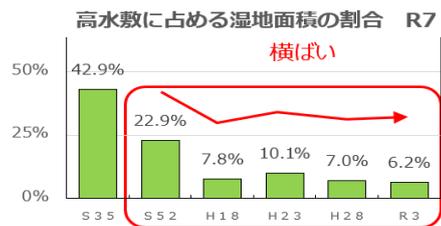
江戸川本川における出水で植生・樹林は減衰することはまれで、拡大成長していく。  
 出水による影響でワンドや池、湿地は、冠水により消失していく状況が見えてきている。

##### <目標>

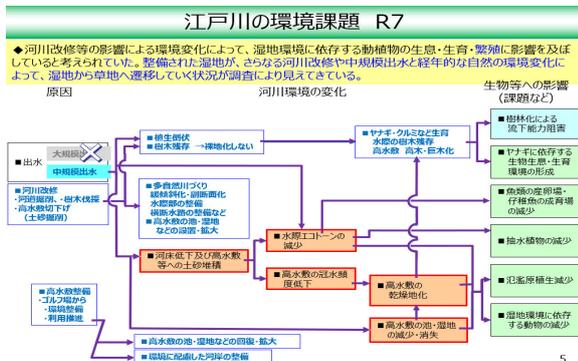
持続可能なサイクルで地域・有識者との協力体制で人工的改変が進められる枠組みの整理

#### 取組内容・対策例(1/2)

- ・湿地の調査手法について、過去のまとめ方では実施効果の整理として差が出てきている。評価手法の精査と再整理に取り組んでいく。



- ・さまざまな河岸形状、ワンド整備を行ってきているところ。生物等への影響がまだある。



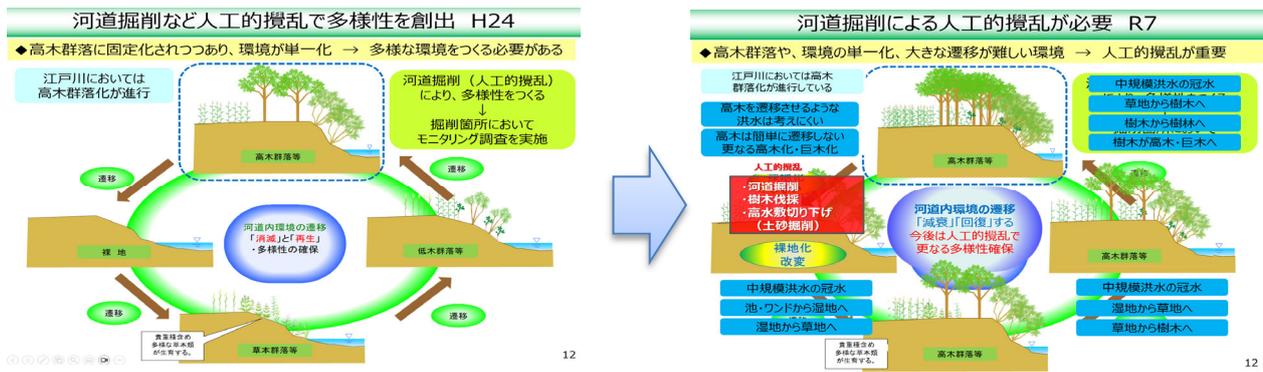
- ・整備から15年経過した箇所について、改修計画の河道掘削と併せ、2回目のワンド湿地整備を行った。
- ・今後ほかの箇所においても、実施が継続可能な体制づくり、枠組みづくりを検討していく。



取組内容・対策例 (2/2)

江戸川では平成17年ころより多自然川づくりに取り組んできている。  
取組の成果について好事例を踏まえ平成24年に全国会議にて紹介させていただいた。  
その後、ワンドや緩傾斜河岸、自然に配慮した河岸のその後について経過観察を実施してきたところである。

今までの取組の方針は「生物多様性の拡大を目指して、河道掘削などの取組で人為的な改変を行っていく」としてきていたが、その後の継続して実施してきた調査結果やその後にあった洪水の影響、整備箇所その後の状況などから、平成24年に想定していた自然遷移の状況と実態に差があることがわかってきた。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

江戸川では多自然川づくりとして、河岸の緩傾斜掘削、平水位掘削、ワンド整備、池整備など取組を続けてきたが、新たな対策法についても、江戸川環境保全モニターや自然環境の有識者、地域の環境団体と情報交換や現地見学会などを実施してきた。



今後においても、過去の取組成果の改善点や新たな知見を今までの取組と重ね、江戸川の特性に合わせた持続可能な多自然川づくりを、加藤エコロジカルネットワーク、自然と人を育む地域づくりと足並みをそろえて進めていく。

新しい取組



備考

江戸川河川事務所では、関東エコロジカル・ネットワークの地域エリア部会として、自然と人を育む地域づくり推進協議会に取組んでいます。多自然川づくりは、その取り組みの三つのテーマ「定着地づくり」を進めるものです。

